

小松菜農家のお仕事

7月9日（水）3年生の教室で小松菜農家の方をお招きした授業を取材しました。
西船橋の農家さんが3年生の各クラスを周り、農家のお仕事についてお話ししてくださいました。



事前の授業で小松菜農家のお仕事について学んでいた子どもたちが手を挙げて、各自で用意していた質問を発表し農家さんが答えるというスタイルで授業は進みました。

「小松菜って何種類あるんですか」

「小松菜づくりで一番大変なことは？」

「たくさん小松菜が取れる時期はいつですか」

「失敗したことはありますか」

一人で何回も手を挙げる子、なかなか挙げられない子もいましたが、どの子も興味津々、集中してお話を聞いていました。途中で農薬を散布する機械を背負わせてもらいその重さにびっくりする様子も印象的でした。

農家さんが蒔いている種の袋や、虫がついて売り物にならなくなった小松菜を回してみせてもらいながら、季節ごとに150~200種類の種が出回っていること、種をまいて収穫まで4、5週間かかるが、種まき、水やり、農薬散布、収穫各工程に使う機械などがあり、お金がたくさんかかるので儲けが出るように考えながら作業を組み立てていること、何百メートルも溝を掘って種をまき、ネットを張って溝を埋めてという作業が重労働であること、小松菜も商品としての規格サイズがあり、伸びすぎたり虫に食われたりすると買い取ってもらえないので、タイミングを誤らず農薬や肥料を与えないといけないこと等など、座学だけでは調べきれなかった「農家の仕事」の苦労や魅力に触れることができました。

給食でもよく登場する小松菜が子どもたちにとって、より身近な野菜になったのではないのでしょうか。

